

優っくり村乃木坂新聞

運動の秋～運動会と体操～



優っくり乃木坂では室内の小さな秋の運動会が行われた。外の寒さを気にせず参加できるよう工夫された催しで、会場には終始、笑顔と活気が満ちていた。競技は玉入れとパンくい競争（和菓子を使用）の二種目。最初の玉入れでは、利用者が新聞紙を丸めて作った玉を段ボール箱に投げ入れるシンプルなルールながら、紅組・白組ともに真剣そのもので、応援の声も自然と弾んだ。続くパンくい競争では、吊るされた和菓子をめがけて挑戦。手を使えない難しさに笑いが起こり、挑む表情もどこか楽しげで、会場の雰囲気がいっそう温かくした。終盤には職員も競技に参加し、利用者に負けじと必死に“獲物”へ飛びつく姿に、会場には大きな笑いが広がった。参加したA様は「たまにはいいわね。楽しかった」と話し、満足そうな笑顔を見せた。施設では「皆さんと一緒に全力で楽しめる時間は貴重。来年もぜひ開催したい」としている。



資格取得



T職員がこのほど、介護職員初任者研修を修了し、資格を取得した。日々の現場での気づきが学びにつながり、「学んだことを利用者さんの安心につなげたい」と笑顔で話す。施設では「努力が実を結びうれしい。今後の成長にも期待したい」と温かく見守っている。T職員は、これからも経験と学びを生かし、利用者に寄り添う支援を続けていく。

今月のカレーの日



施設で秋の旬を味わう「キノコカレー」「ピラフ風ライス」の調理レクが行われ、利用者と職員が一緒に調理を楽しんだ。旬のキノコを使ったカレーは香り豊かで、ピラフ風ライスとの相性も抜群。利用者は材料を切ったり混ぜたりと協力し合い、和やかな雰囲気で作業が進んだ。完成した料理を囲むと笑顔があふれ、「とても美味しいね」「みんなで作ると余計においしく感じる」といった声が聞かれた。今後も利用者が季節を身近に感じられる企画を続けていく予定だ。



ハロウィン



施設ではハロウィンに合わせ、利用者と職員がさまざまな仮装を楽しみながら、ミッドタウンガーデン周辺へ散歩に出かけた。道中はちょうど金木犀が満開で、甘い香りが風に乗って広がり、「いい香りね」「秋だねえ」と自然と笑顔がこぼれた。施設では当日、ハロウィン用の手作りお菓子づくりも実施。かぼちゃを使ったミニスイーツや簡単クッキーを皆で協力して作り、出来上がったお菓子を囲んで「かわいいね」「おいしい」とにぎやかな時間となった。短い外出ながら、仮装・散歩・手作りお菓子と秋のイベントをたっぷり満喫し、参加者からは「とても楽しかった」と好評。施設では「季節を感じられる行事をこれからも大切にしたい」としている。

別枠ハイライト集



今年の秋もさまざまな取り組みが行われ、インドネシア出身の職員が他事業所研修として来訪し、利用者と一緒に交流しながら研修を行った。また寒い日が増える中でも楽しみながら体を動かせるよう昔遊び「かごめかごめ」を取り入れた運動レクリエーションを実施。歌を歌いながらの軽い運動に、参加したE様は「懐かしいね」と笑顔を見せた。家事レクリエーションも積極的に実施し、利用者がそれぞれ得意な作業を手伝う時間を設けたことで、自然な交流と役割づくりが生まれた。施設では「季節に合わせた活動を続け、皆さまがいきいきと過ごせる場をつくっていききたい」としている。

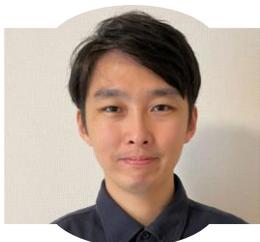


秋の手作りスイーツ



利用者と職員が協力して作る“手作りお菓子”を新たな取り組みとして力を入れている。季節の味を楽しみながら、施設の魅力として発信していきたい考えだ。濃厚な「チョコレートプリン」、かぼちゃのハロウィンケーキ、香ばしい香りが広がる「秋のみたらし団子」など。利用者は材料を混ぜたり形を整えたりと協力して下さり、職員との会話も弾んだ。完成したスイーツはどれも好評で「お店に出せるくらいおいしい」「手作りはやっぱり温かい味がするね」と笑顔の声がかかれた。引き続き、施設の特徴として“手作りお菓子”をもっと広げていきたいとしている。

『現在、空きがございます!!』



和田 直大

わだ ちひろ

【支配人・ケアマネ】



加藤 仁啓

かとう よしひろ

【介護支援課長】

ご利用案内登録定員：25名

通い：1日15名まで

泊まり：個室9室（1日）

訪問：制限なし（ご希望に応じて対応）

- ・看護師が毎日常駐
- ・理学療法士在籍／リハビリ評価も実施
- 送迎対応港区内全域に対応 -
- 医療・リハビリも安心 -

（所在地）〒107-0052
東京都港区赤坂9丁目4-2 パークコート赤坂檜町ザタワー2階
（問い合わせ）03-6804-5267

